

アフリカに住む猿

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

今年(平成16年)の干支は申(さる)ですが、アフリカの猿たちを見ていますと、思わず我が身を振り返ってしまうような表情や仕草をするものが出て、飽きることはありません。

最も体が大きく、体重 200kg にもなるゴリラを筆頭に、チンパンジー、マンドリル、ヒヒ、サバンナモンキーなどの類人猿に加えて、小型でひととき大きな瞳が印象的な原遠類のキツネザル、リスザル、ブッシュベイビーなど、ペットとして飼いたくなるような可愛い姿のものまで、数多くの猿たちが、アフリカに住んでいます。

その中でもひととき目を引くのが、今回ご紹介するブラック・アンド・ホホワイト・コロブスモンキー(クロシロコロブスモンキー)、別名アビシニアコロブスモンキーです。

写真①でもわかるように、顔の輪郭をぐるりと囲むように純白の毛が生えており、やや奥まった眼光は鋭く、真一文字に結ばれた意志の強そうな口元を眺めていますと、まるで哲学者か気難しそうな人のような感じですが。

クロシロコロブスモンキーと呼ばれている通り、顔の周囲と背中の外側、そして長い尾の先の純白の毛以外は、全身真っ黒です。

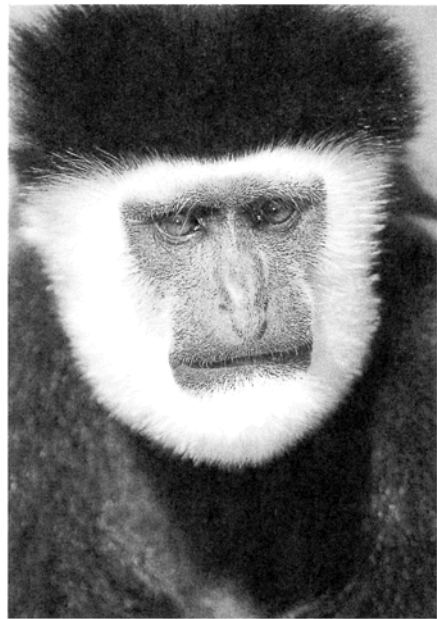


写真1

クロシロコロブスモンキーの生活圏は、木々が生い茂った森の中です。得意のジャンプカを生かして、高い木の梢から梢へと飛び移り、あまり地面に降りることはありません。赤ん坊を抱いた母親でも、器用にジャンプします。

独特の風貌から、土地の人々はクロシロコロブスモンキーのことを“神の化身”とも“神の使い”とも呼びならわしていますが、見ていますと、なるほどどうなづけれます。

クロシロコロブスモンキーが多く生息する赤道直下、標高5,199mのケニア山を囲むアバーディア山塊では、時に数10頭の群れが樹上にいる姿を見ることができます。

クロシロコロブスモンキーは頭か雛ら尾の先までの長さが60~70cm、ニホンザルよりもやや大きいくらいです。

同じように森の中を好んで生活している猿のひとつに、ブルーモンキーがありますが、ブルーというよりも全身がグレーと濃げ茶色の毛で覆われています。ほとんどのブルーモンキーの毛並みがグレーと濃げ茶色なのに対して、前述のアバーディア山塊に住むブルーモンキーは、ちょっと変わっています。

写真(②)のように、白い毛が首のまわりをぐるりと囲んでいるのです。「まるでマフラーを巻いているみたいで、お洒落だね」と言う人もいますが、同感です。

アバーディア山塊に住むブルーモンキーだけに、何故か出る特徴なのですが、クロシロコロブスモンキーと住んでいる地域が近接しているため、2種を混同してしまう人も少なくありません。

母子が仲睦まじく身を寄せ合っている姿は実に微笑ましいのひとつですが、実は意外に野生の荒々しさも持ち合わせています。

ある時、野生動物を観察、撮影するために世界中から動物好きの人たちが訪れる宿泊施設のひとつ、アバーディア山塊にあるマウンテンロッジに泊まっていた時、ブルーモンキーの狩りの瞬間を目撃し、息を呑んだことがあります。

テラスの先に座っていた一匹のブルーモ



写真2

ンキーが、飛んでいた鳥を目にも止まらぬ早さで捕らえ、アッという間に食べ始めたのです。両手で鳥の羽をつかみ、脇目もふらずに食べるその姿に圧倒されたことを、まるで昨日のことに鮮明に覚えています。

それはさて置き、何んの動物でも子どもたちの遊ぶ姿は無邪気でかわいく、どんなに長い時間見ても退屈することはありません。

それが私たち人間と同じ霊長類の子どもであれば、なおさらです。

▶ 平岩道夫&雅代父娘写真展「ケニア
とタンザニアの野生動物たち」新会場
決定！

4月24日(土)～5月7日(金)までの2週間、平岩道夫&雅代父娘写真展が、東京・高円寺のコンドルグループ本社ギャラリー(東京都杉並区高円寺南5丁目15-3、コンドル桃ヶ丘ハウス1階)で開催されることになりました。

新会場は静かな住宅街にあり、総大理石の床。道路に面したガラスには、漫画界の第一人者、小島功画伯の美女たちが微笑んでいます。

「会場は住宅街にあるため、JR中央線高円寺駅下車、南口から“虹のマーク”のコンドルタクシーを利用すれば、わずか数分、ワンメーター(660円)でたいへん便利です。会場からお帰りの際には、駅までの道順地図を差しあげます」とは、ギャラリー担当者の話。

同会場での写真展には、平岩父娘撮影による大型写真パネル120点と、「平岩アフリカツアー」参加者による「私のアフリカ傑作ミニ写真展」1,200点が展示されます。

問合せはTEL03-3316-6234 平岩道夫&雅代宅へ